



発行：令和2年10月20日
茨城県青年海外協力隊を育てる会
発行人：小川一成
編集：広報文化委員会
事務局：つくば市高野台3-6 TEL305-0074
JICA筑波センター内
TEL 029(838)1111
印刷：合資会社おおた



2月から新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大し青年海外協力隊員も任地から一時帰国となっておりますが、現在のところ任地へ再派遣される見通しはついておりません。「つくばね」63号発行も遅っていますが、最近の情報だけでも報告できればとページを縮小して、皆様のお手元にお届けする事にしました。

当会もすべての事業が中止、延期となっております。そんな中、理事会だけはと6月22日(月)理事13名・JICA育てる会担当者3名の出席で総会の開催について議論された結果令和2年度総会は中止となりました。当日は総会時の議題に沿って各担当者から報告がありました。

議案第1号 令和元年度事業報告は3月の事業はす

べて中止になった経緯が事務局から報告がありました。

議案第2号 令和元年度収支決算報告では会員数は減少したが、新会員加入もあり、収入額は前年度より増、支出額は壮行会・広報紙発行・など中止の為、減と会計担当者から報告がありました。

議案第3号・4号は例年通りの計画で進めていくことになりました。

議案第5号 役員改選は広報文化委員長に川西俊三理事 監事に鶴町みち子理事が就任する事になりました。

総会資料は後日会員の皆様に送付させていただきました。

茨城県JICA海外協力隊家族連絡会に参加して

小美玉市 鶴町 みち子

今回は、アフリカに派遣中の5家族8名と、体験談の発表を引き受けてくださった帰国隊員、JICAスタッフ、そして私たち「育てる会」の会員が参加して開催されました。今回の特徴は、参加者のほとんどがアフリカ隊員または経験者だったことです。近年の派遣国の情勢も垣間見える家族連絡会となりました。体験談を発表してくれたのは、2017年度1次隊でマラウイ派遣の小野明子さんでした。看護師という自分を活かす「公衆衛生」という職種での赴任ということで、着任までに計画的に自身の能力を高める実践を積んで参加したということが印象的でした。例年ですと帰国して間もない隊員の参加者がいて、生々しい話が多く聞かれたのですが、今回はその点において少し残念に思いました。

協力隊の派遣事業は職種により、また派遣国により住環境や食事情についてかなり異なるようです。しかし、身の安全と健康保持についてはどこの国においても現地の事務所に専門家が待機して対応してくれます。とりわけ日本は住環境への配慮がありがたいという話をしてくれました。グループ懇談会は2つに分かれ、私が参加したグループでは帰国してからの就職について熱心な話し合いが持たれました。私の娘も大学院を卒業してからの参加だったことを思い出し、懐かしく思いました。

帰国隊員や家族の方々とお会いすることで新しい情報を共有できました。

これからも皆さんと一緒に応援していきたいと考えております。



現在の協力隊について

独立行政法人国際協力機構

筑波センター

所長 渡邊 健



世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症ですが、JICAの国際協力事業にも甚大な影響を与えています。今年3月、JICA海外協力隊の派遣中隊員は、約2千名全員が日本に一時帰国しました。また、2020年3月以降に予定していた新規隊員の派遣も延期となりました。茨城県出身者は、一時帰国隊員が39名、訓練終了後派遣待機中の2019年度第3次隊が8名、訓練前の2020年度第1次隊が15名を数えます。

待機期間が始まって120日が過ぎた隊員は、①待機期間の特別延長、②派遣合意を一旦解除したうえで次回派遣に向けて特別登録、③特別延長・登録を行わず派遣合意を解除、の何れかを選択しました。①を選んだ隊員は、任国や配属先等に関する活動、自己研鑽・能力強化、日本国内の地域の課題解決のための活動を実施しながら、（再）赴任に向けて待機しています。②を選んだ方は、一定の登録期間内に協力隊の派遣再開が決定した後に、次回派遣の調整を行うものです。③を選んだ方は、隊員としての身分を打ち切り、新たな道へ進まれることになります。茨城県出身者では、8月現在で22名の方が①待機を選択されています。

待機中の隊員の中には、日本に滞在しながらもオ

ンラインで任国と結び、遠隔授業で協力隊活動を継続している方がいます。自己研鑽・能力強化としては、JICA筑波で実施中の稲作研修コース、行方市での地方行政と農業実習研修、栃木県のNPO法人による有機農業研修、県内NPO法人によるコミュニティ開発のオンライン講座、つくば市のサッカーチームの協力を得たスポーツのオンライン講座等への参加や、本邦滞在中のJICA研修員との交流等が行われています。また、地域課題解決への貢献としては、茨城県OV会のお声掛けによる植林・草刈りのお手伝い、県内の小学生から高校生に対する国際協力出前講座（オンラインでガーナと接続したこと）、県内NPOでフィリピンに寄贈する中古楽器の清掃ボランティアなどが実施されています。

未曾有のコロナ禍においても、協力隊員は頑張っています。JICAでは、協力隊を応援して下さる皆様方のご支援を得て、社会貢献意識の高い協力隊員に対して、待機をしている期間中も全国各地での様々な活躍の場を提供すべく努力しています。また、新たな進路を目指す方には、キャリア形成への支援を行っています。世界のコロナ禍の動向は予断を許しませんが、出来る限り早い時期に協力隊員が（再）赴任できるような環境が整うこと願って止みません。



ケベメールでの1年9ヶ月

JICA海外協力隊 2018年度1次隊 三島純菜

2018年度1次隊 小学校教育隊員としてセネガル共和国(以降、セネガル)に派遣されていました、三島純菜です。セネガルでは首都から3時間半のケベメールという町の教育委員会に配属されていました。人口は2万人程で、砂漠を味わえる観光地ロンプールが近くにあるので、ヨーロッパからの観光客が長期休暇に訪れる町です。要請内容は『ケベメール市内の小学校を巡回し、算数教育の質の向上を目指した活動を行う。情操教育科目の授業実施の支援を目指す。』というものでした。任期前半は授業観察に重点を置き、セネガルの教育の現状や課題を把握し、後半は授業観察を経て見えてきた課題に対し、様々な教具や指導方法を現地教員と共に考え、実践しました。

算数の課題として、低学年の児童の数の概念の定着が悪いことが挙げられます。現地語もままない子どもたちがフランス語で算数の授業を受けている上に、段階を踏まずに、いきなり抽象的な概念を教える授業スタイルに原因があります。そこで、現地で用意できる材料を使い、子どもたちが主体的に算数を学べる教具を開発しました。また、10までの数の合成分解の歌をフランス語で作り、楽しく歌いながら学ぶことができる工夫をしました。すぐに劇的な効果が表れないのが教育支援の難しい点ですが、子どもたちは積極的な姿勢を見せてくれたので、自ら勉強しようという意欲を向上させることには繋がったのではないかと思います。体育や音楽の授業は時間割には入っているけれど、実際に授業を行っている先生は少数です。そこで全学年が週1回体育の授業を行えるよう、時間を調整してもらい実施しました。



派遣期間が終盤になった頃、普段一緒に活動をしている先生から、「何年か前に鍵盤ハーモニカで子どもたちがセネガルの国歌を演奏していて感動した。」という話を聞きました。その話を聞くまでは、物資の支援は一時的な支援になってしまうのではないかという懸念がありました。けれども、年月が経っても演奏が心に残っているという話を聞き、鍵盤ハーモニカを使って国歌を演奏する機会をセネガルの子どもたちに提供する意義を見出すことができました。そこでどうにかして鍵盤ハーモニカをセネガルに届ける方法はないかと茨城県青年海外協力隊を育てる会会長の小川先生に相談させていただいたところ、すぐに話を進めてくださいました。最終的に私の母校の守谷市立高野小学校の卒業生から30台の鍵盤ハーモニカを寄贈していただくことができ、無事にJICAセネガル事務所に届きました。この場をお借りして、本当にありがとうございました。残念ながら、鍵盤ハーモニカが事務所に届いた連絡を受けたのは日本に緊急帰国してからのことでした。協力隊の派遣再開がいつになるのか、まだ見当がついていませんし、私自身の任期は緊急一時帰国中に終了していましたが、再開した暁にはたくさんの方々の想いが詰まった大切な鍵盤ハーモニカをセネガルの子どもたちにきちんと届けられるように調整して参ります。



事務局追記：鍵盤ハーモニカの送料と送付事務は当会の“小さなハートプロジェクト事業”として実施させていただきました。

これまで・これからの事業について

■ これまでの事業報告

1月11日(土) 第7回運営委員会 JICA筑波センター

1月25日(土) 「つくばね」62号発行

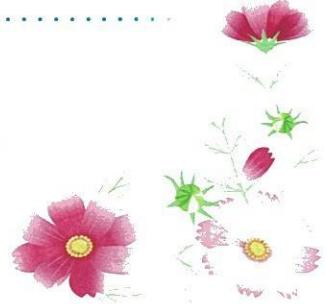
2月 8日(土) 協力隊家族連絡会 JICA筑波センター ※3月の事業はウイルス感染予防のため中止となる

※令和2年度第1回・第2回・第3回・第4回の運営委員会は中止となる

6月22日(月) 第1回運営委員会 JICA筑波センター

※令和2年度総会 理事会で協議の結果中止となる

9月 5日(土) 第5回運営委員会 JICA筑波センター



■ これからの事業予定

※第6回・第7回の運営委員会は中止とする

10月下旬 第2回理事会

12月5日(土) 第8回運営委員会



|編|集|後|記|

『全員、一時帰国!』、『派遣は延期!』今年3月、JICAが出した指示です。

熱い思いで活動中の隊員や、準備万端整った隊員たちの心境を思うと後方から応援している我々にとっても非常につらいものがありました。現状は本誌のJICA筑波センター所長の投稿にある通りの状況となっています。

そういう状況で協力隊活動そのものが停止してしまい、育てる会の活動も派遣隊員の壮行会や通常総会が開催できない状況になるなど、一時停止状態になってしまいました。

そのため、予定していた本誌の発行も遅れてしましました事大変申し訳なく思っております。待機中の隊員は様々な状況の中でそれぞれ頑張っておられるようすで育てる会としてもできるだけの事で応援を続けたいと思っています。状況の早期の終息を願い、協力隊活動の再開と育てる会の通常活動の再開を願ってやみません。会員の皆様におかれましては、JICAの動向を注視していただくと共に今後とも息の長い応援をお願いいたします。

事務局だより

会員状況 () は家族会員

区分	令和2年3月末現在	令和2年8月末現在
個人	105 115 (2)	97 (2)
団体	20	19
計	125 135 (2)	116 (2)

